

社会教育指導員の部屋

2021.1月

人権同和課 社会教育指導員 清水 彰

「第23回 いのちの駅伝」

令和2年10月10日（土）に実施を予定していた「第23回 いのちの駅伝」が、大雨のため中止となりました。昨年度も東日本台風の影響を受け中止せざるを得なかった駅伝です。「いのちの襷」を繋ぐべく、望月地区の小・中・高等学校と市役所及び教育委員会にて「第23回 いのちの駅伝、メッセージの伝達式」を行いました。

1 望月高等学校伝達式 令和2年10月21日(水) 午後4時15分～



- ・解放子ども会員代表(5)
- ・望月高校 生徒会正副会長(2)
- ・望月高校 校長・教務・担当(3)
- ・解放子ども会指導員(2)
- ※ 市・担当者(1)

2 望月小学校伝達式 令和2年10月28日(水) 午後2時30分～

- ・解放子ども会員代表(9)
- ・望月小学校 5・6年児童(全員)
- ・望月小学校 校長・教頭
5・6年担当職員(7)
- ・解放子ども会指導員(2)
- ※ 市・担当者(1)



3 望月中学校伝達式 令和2年10月28日(水) 午後3時10分～



- ・解放子ども会員代表(5)
- ・望月中学校生徒会役員(4)
- ・望月中学校 校長・教頭・係職員(3)
- ・解放子ども会指導員(2)
- ※ 市・担当者(1)

4 佐久市・佐久市教育委員会 令和2年11月4日(水) 午後4時 30 分～

(1) 佐久市長伝達式 (特別会議室)



- ・解放子ども会員(7) ・望月高校生徒会長 ・望月高校長・
- ・佐久市長 ・部落解放同盟佐久市協議会長・解放子ども会指導員(2)
- ※ 市・担当者

(2) 佐久市教育委員会・佐久市学事職員会伝達式 (南棟3F 大会議室)



- ・解放子ども会員(7) ・望月高校生徒会長 ・望月高校長
- ・部落解放同盟佐久市協議会長 ・解放子ども会指導員(2)
- ・佐久市教育長 ・佐久市学事職員会理事長(佐久市小・中学校長会長)
- ※ 市・担当者

5 伝達された「いのちの駅伝」メッセージ

(1) 思いを結集して

いのちの駅伝の経過について ～思いを結集して～

私たち望月解放子ども会の先輩が高校生になってから、日々、学校でいじめられ、誰にも言えず、たった一人で悩み、苦しみ、もがき、そして、耐え切れなくなって、自ら「死」を選んだ。17歳のいのちの時計は、そのまま永遠に、時を刻むのを平成9年4月9日にやめた・・・。

いじめをはじめとするあらゆる差別は、肉体的、精神的、立場的に自分より弱いものを、暴力やいやがらせなどによって一方的に苦しめ、最後には「人の命を奪う」ことがあります。

望月解放子ども会では、あらゆる差別に対して「差別を見抜き、差別をしない、差別を許さない」学習活動を続けてきました。

そんな中、高校に進学した先輩が、「いじめ」により自死してしまう出来事が、今から24年程前にありました。

いじめによって、命を奪われたという事実を深く心に受け止め、望月解放子ども会は「いじめをなくすためにはどうしたらよいか」話し合い、友だちづくりが大切なことを学びました。

「友だちの輪」を広げるために「あいさつをすること、自分から声をかけること、一緒に遊ぶこと」を決めました。この三つのことを「勇気」をもって実行することにより、友情の輪ができるのではないかと考えました。

そして、いじめやあらゆる差別をなくすための「友情の輪」を望月町（当時）全体に広げ、二度とこのような悲惨なことが繰り返さないようにしたいという願いから、「いのちの駅伝」が発案されました。

始まった当時は、望月解放子ども会員が仲間と共に望月町役場（当時）ら、布施小学校、望月中学校、春日小学校、協和小学校、本牧小学校、望月高校の順に各学校を訪問し「いのちの駅伝のメッセージ」を各学校に届けていました。

交通事情もあり、バスで移動しながら、一部分を揃って走る方法で、届けていましたが、時代と共にコースは変わり、現在は望月小学校、望月中学校、望月高等学校、望月人権文化センターを回るようになりました。

また、平成20年度より、いじめや差別をなくす人権教育に活かしていただきたく、佐久市内の全小中学校へメッセージをお送りしています。

そして、今も解放子ども会、部落解放同盟佐久市協議会や賛同してくれる多くの人々の想いにより、参加者は年々増え、襷に託された思いが受け継がれ、広がっています。

(2) 小学校長あて

〇〇しょうがっこうちやう小学校長 様

いのちのえきでん駅伝メッセージ

1997年4月9日、かいほう解放子ども会かいの先輩せんぱいがしんがく進学したこうこう高校で「いじめ」にあいみずか自ら命いのちを絶たって、ことし今年で24ねんめ年目になります。

私たちかいほう解放子ども会はかい部落差別ぶらくさべつをはじめとするあらゆる差別さべつに対して「差別さべつをみぬき、差別さべつをしない、ゆるゆる許さない」活動かつどうを48年間続けてきました。私たちがなぜいじめや差別さべつをゆるゆる許さない活動かつどうをしているかということ、いじめや差別さべつは「人の命いのちを奪うばう」ということがあるからです。「いのち」は私たちにとって、かけがえのない一番大切いちばんたいせつなものです。「いのち」を大切たいせつにするという事は、自分の「いのち」も他の「いのち」も大切たいせつにするということです。

ことし今年せかいじゅうは世界中でしんがた新型コロナウイルスがはやり、がっこう学校へ行って勉強べんきやうしたり遊ぶあそぶことができなくなったり、楽しい行事が中止になりました。

だれ誰もが見えないコロナをこわがり、ただ正しくない情報じやうほうや嘘うそに振り回まわされています。ひと人は誰でも病びやうき気にかかります。病びやうき気にかかるのは、その人のせいではありません。コロナは確たしかに恐おそろしい病びやうき気ですが、私たちが恐おそれるのはウイルスであって、人ひとではありません。

私たちは、これからも友達ともだちをいっぱいつくって、人を大事だいじにする温あたたかい「人間の絆きずな」をどんどん広ひろげていきたいと、強ねがく願ねがっています。

どうか「いじめ」や「差別さべつ」をなくして、みんなが元げんき気で明るく楽しい学校生活がっこうを送おくれるように、私たちと一緒いっしょにがんばりましょう。

2020年10月10日

さくしもちづきかいほう佐久市望月解放子ども会 かいいんおよ 会員及び賛同者一同

(3) 中学校長あて

〇〇中学校長 様

いのちの駅伝メッセージ

私たち望月解放子ども会は、1972年に「良さを、友を、力を」を合言葉に発足されてから48年間、部落差別をはじめとするあらゆる差別に対して「差別をみぬき、差別をしない、許さない」を目標に活動を続けてきました。

けれども、1997年4月9日、解放こども会の先輩が進学した高校で「いじめ」にあい自ら命を絶ってしまいました。

子ども会活動の中で、先輩がいじめによってかけがえのない命を奪われたという事実は、わたしたち子ども会員の心に深く刻み込まれました。そして、この痛みと悲しみを知る解放子ども会員が中心となり、「いじめ」や「差別」は人の「いのち」さえも奪う絶対に許されない行為であるということをも多くの皆さんに訴えていかなければならない、という思いから「いのちの駅伝」が始まりました。

今年、令和2年、わたしたちは新型コロナウイルスの感染拡大により生活が一変しました。得体の知れない未知のウイルスにより、今まで普通に学校へ行く事、部活等みんなと遊ぶ事もままならない状況にありました。人の移動も自粛されてみんなの気持ちは、ささくれ立ちイライラが募ってきました。この、コロナウイルスによって感染者に対するいじめや差別、過剰な自粛を求めて危害を加え、人を傷つける事件が多発しています。誰もが見えないコロナウイルスに恐怖し、不確かな情報に振り回されています。人は誰でも病気にかかります。病気にかかるのは、その人のせいではありません。コロナウイルスは確かに恐ろしい病気ですが、私たちが恐れるのはウイルスであって、人ではありません。コロナウイルス感染防止のため「いのちの駅伝」の開催も見送らなければならないかと危惧されましたが、こんな時だからこそ代々先輩達から受け継がれてきた命や人を思いやる気持ちの大切さを訴えていかなければならないと思いました。例年とは違う駅伝のかたちですが、昨年台風の影響で中止になった「第23回 いのちの駅伝」を開催しました。

人は誰もが尊重され幸せに生活する権利があります。必要のない人間や「いのち」なんてありません。すべての「いのち」が大切にされなければなりません。

どうか、「いじめ」や「差別」をなくし、誰もが明るく希望に満ちた学校生活を送れるよう、私たちと共に頑張りましょう！

2020年10月10日

佐久市望月解放子ども会 会員及び賛同者一同

(4) 望月高等学校からのメッセージ

佐久市長 様

いのちの駅伝 望月高校メッセージ

今日は、「いのちの駅伝」に参加させていただき、「命の大切さ」、「いじめや差別の悲惨さ」について考える事ができ、「いじめや差別は絶対にいけない」と、改めて実感することができました。

望月高校では、1997年に当時高校2年生だった生徒が、「いじめ」を受けて自ら命を絶ってしまうという辛く悲しい出来事がありました。

私達望月高校は、このような悲劇を二度と繰り返さないようにするために、年に2回の人権週間には、毎日人権について考えたり、人権講話に耳を傾けたりすることで、学び合い、「いじめ」や「差別」をなくそうと努力しています。学ぶことで真実を知り、なぜいじめや差別がなくなるのかを深く考えます。

私達は「いじめや差別はいけない」と頭では分かっているけれども、無意識のうちにあるいは軽い気持ちで、人の心を傷つけたり、不快な気持ちにさせてしまっていることもあります。いじめや差別を絶対にしないという考えを持ち、そして相手の気持ちを理解することが、いじめや差別を減らす一歩になると思います。

今年度で望月高校は閉校になってしまいますが、「命の尊さ」「互いを認め尊重する大切さ」を忘れず、「いじめや差別を絶対しないこと」「相手の気持ちを理解すること」を、社会全体に広げていきたいと思えます。

望月高校の生徒として、いじめや差別によって、自ら命を絶つような悲劇が二度と繰り返されないよう、生徒一人一人が人権問題にしっかり向き合い、自身の行動に責任を持つことをここに誓います。

2020年10月10日

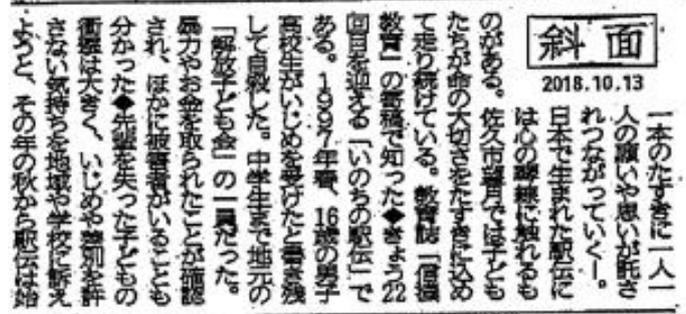
望月高等学校 生徒代表
佐藤 翼

6 伝えられた「いのちの駅伝」(信濃毎日新聞「斜面」2018.10.13)

「第22回 いのちの駅伝」が、2018年10月13日におこなわれました。その当日の朝刊で取り上げられた、信濃毎日新聞「斜面」

の記事(下記)に、「いのちの駅伝」が取り上げられました。この駅伝の始まりや、意義について記載されています。また、解放子ども会の門戸を開放し、だれでも参加し活動する解放子ども会になってうけつがれていることや、受けついだ「いのちの襷」が、中学校での「いじめ対策委員会」の活動に繋いでいることが記されています。

「足元から人権感覚を磨く格好の教材」として「いつまでもつないでほしい命のたすきである。」とまとめられています。



また、友達づくりの大切なことを語り掛けるメッセージを小中高校の順に回って届けながら小中高校生がたすきをつなぐ。きょうは約60人が参加の予定だ。指導員として子ども会を支えた佐藤まり子さんに話を聞いた。当初は「黙っていいじゃないか」と嫌たの思いも熱かったが、少子化や町の合併で環境が変わり、途切れそうになっただけでも、子ども会の門戸を開放して参加が広がり、地域にも浸透してきた。当時、中学校の生徒会に「いじめ対策委員会」ができたのも画期的だったという。市内の学校では人権教育でこの駅伝を取り上げることもある。足元から人権感覚を磨く格好の教材になっている。世界的に偏見や差別が大きい左問題になる中で、いつまでもつないでほしい命のたすきである。

※ 「いのちの駅伝」伝達式とあい前後し、望月中学校「いじめ対策委員会」による、シトラスリボンプロジェクトが進められ、11月11日には、全校生徒がシトラスリボンを作りました。「いのちのたすき」がひきつがれています。

